

# よくある質問

## Q1.内水ハザードマップとは？

A 下水道や道路側溝等の排水能力を超える大雨等によって浸水が発生した場合に想定される浸水区域や浸水深を示したものです。お住まいの地区の水害リスクを把握することで、集中豪雨等の水害に対する日頃の備えとしてお役立てください。

## Q.2 この内水ハザードマップは水防法の規定に基づくものか？

A 今回の変更によって川越市の内水ハザードマップは水防法の適用となります。このため、不動産取引時における重要事項説明に義務化されます。

## Q3.これまでの内水ハザードマップとの違いは？

A これまでの内水ハザードマップは川越市内で観測された最大規模降雨(1時間当たり 72.5mm)によるハザードマップであり、今回変更されたハザードマップは、国のガイドラインに基づき、想定し得る最大規模の降雨(1時間当たり 153mm)をシミュレーションの前提とするなど、水防法の規定に基づいて作成されたものとなっています。

## Q.4 水害ハザードマップ冊子の再発行については？

A 現在発行している水害ハザードマップ冊子の増刷時から内水ハザードマップを差し替える予定です。(市のホームページから内水ハザードマップ(PDFデータ)をダウンロードできるほか、小江戸川越マップから内水ハザードマップを選択することで住所検索が可能です。)

## Q5.内水ハザードマップを変更した理由は？

A 平成 29 年台風 21 号をはじめ、本市は度々内水浸水による被害が発生しており、より大規模な内水被害に対応する水害リスクを把握していただくことが防災意識の啓発につながるものと考え、この度水防法に基づく想定最大規模降雨による内水ハザードマップを作成することとなりました。

## Q6.洪水ハザードマップとの違いは何ですか？

A 洪水ハザードマップとの大きな違いは、設定されるシミュレーションのシナリオであり、台風等による長時間・広範囲の降雨を想定する河川が氾濫する洪水に対し、内水は集中豪雨など比較的短時間・局所的な降雨を想定したものとなっています。台風や集中豪雨など、降雨の特性に応じて使い分けてください。

### Q7.シミュレーションの条件はどのようなものですか？

A 今回実施したシミュレーションの主な条件は以下のとおりです。

- ・想定した降雨量：国土交通省の定めた、想定し得る最大規模の降雨(1 時間あたり 153mm)
- ・地盤高：国土地理院のレーザー測量成果(平成 26 年～27 年測量)
- ・下水道の情報：令和 3 年度末時点
- ・地形情報：令和 2 年都市計画基礎調査

### Q8.想定し得る最大規模の降雨とは何か？

A 想定し得る最大規模の降雨とは、国土交通省が地方ごとに定めたもので、関東地方は千葉県香取市において発生した、1時間当たり 153mmの降雨を想定最大規模降雨としています。

### Q9.過去に浸水実績がある箇所が浸水想定区域となっていない、または浸水実績がないのに浸水想定区域となっている所があるが、間違いではないか？

A 今回お示した浸水想定区域は 20cm以上の浸水深から表示しております。また、表示してある浸水実績については、市で通行止めにするなど把握している箇所となります。浸水想定区域はシミュレーションの結果であるため、必ずしも実際の状況に合致するものではありません。

### Q10.浸水想定区域図の配色はどのように決めたものか？

A 浸水深ごとの配色は、国土交通省「水害ハザードマップの手引き」において詳細な基準が示されています。

※本市水害ハザードマップは洪水、内水、土砂災害のみを対象としています。(津波、高潮は非対象です)